

2026 年 5 月 21 日

動物実験計画書

宮城学院女子大学学長 殿

申請者 所属 生活科学部食品栄養学科 職名 教授

氏名 後 藤 知 子 印

宮城学院女子大学動物実験指針第 7 に基づき、提出します。

1 実験担当者等

実験担当者（教員）

生活科学部食品栄養学科 教授

氏名 後藤 知子

実験担当者の動物実験の経験および教育訓練の経験

動物実験の経験 31 年, 教育訓練の経歴 有

実験分担者（助手、学生、大学院生）

所属 食品栄養学科 専任助手 佐々木 優花

所属 食品栄養学科 教務嘱託職員(助手) 佐藤 泉美

所属 食品栄養学科 3 年 A クラス (54 名)

所属 食品栄養学科 3 年 B クラス (54 名)

所属 大学院健康栄養学研究科 1 年 ティーチングアシスタント 宇留野 愛果

所属 大学院健康栄養学研究科 1 年 ティーチングアシスタント 武田 結葵

実験期間

2026 年 7 月 2 日（木）～2026 年 7 月 24 日（金）

【動物飼育期間 2026 年 6 月 11 日（木）～2026 年 6 月 26 日（金）】

2 動物実験名（教育・研究課題）

実験的糖尿病ラットの作成と実験試料の採取

3 実験動物（実験動物の種・系統・性別・使用匹数を含む）

ラット：Slc：Wistar（SPF） 雄 12 匹

4 動物実験の目的（動物実験を必要とする理由を含む）

食品栄養学科 3 年開講の「栄養学実験」の実験項目である。実験的糖尿病の作成は糖尿病の理解を深めるために必要であり、その血漿を用いて血液検査を行うことにより、臨床現場などでヒトの血液データを深く理解できるようになることを目的として行う。

5 動物実験の概要（飼育環境、飼育方法、苦痛軽減の処置、実験終了後の処置を含む）

持続－自由給餌法で、金網ブラケットケージで個別飼育する。飼育室の条件は温度 23℃, 湿度 50%, 明暗周期 08:00－20:00 明期, 20:00－08:00 暗期とする。飼育期間は毎日給餌, 給水, 体重測定を行う。実験的糖尿病の作成においてはストレプトゾトシンの腹腔注射を一回する。解剖はペントバルビタールで麻酔後、十分に麻酔がかかっていることを確認後、開腹し、全血採血し、解剖に供する。

6 動物実験実施場所

家政館 5 階動物実験室